

博士山スキー・黄金沢周回ルート

斎藤 憲一

■山行年月日:2019年2月24日

■メンバー:斎藤憲一 窪田道男
大竹尚子

■コースタイム:奈良部(7:45)～標高
1200m(10:10～10:20)～標高 1476m
(11:13 11:45)～王博士(12:30～12:50)
～車道(15:35)

本来は大戸沢岳に一泊二日での予定をしていたのだが、諸般の事情で一日だけの山行となったことから、去年は結果として散々であった博士山黄金沢の周回ルートを、今年は何とか完成させようと、ミッチちゃんとナオちゃんを丸め込んで、三人で出かけた。

快晴の空の中、奈良部集落から林道を歩き始め、昨年同様に二箇所目の大きなカーブから、できるだけ傾斜の緩やかな斜面を拾いながら右岸尾根に乗る。この尾根のなだらかに延びるブナの林を歩くのは本当に気持ちがいい。

P1, 476 でシールを外し、今回は余りこだわりのない博士山頂は踏まずに、ここから王博士山との鞍部を目指してトラバース気味にスキーを滑らす。この滑りは僅かな距離ではあるのだが、気持ちのいいブナ林の滑りを楽しむ。さて、ここ

からは滑降の出発点である王博士山頂は外せないことから、鞍部からは再びシールを付けて急斜面を登行すると、間もなく王博士山頂となり、その平らな雪面で絶景の展望を楽しみながらコーヒータイムを楽しむ。私は、滑降は勿論楽しいのだが、実は仲間とのこのひとときが、何とも満たされる時間だと感じている。

さて、いよいよ滑降していくのだが、去年のように東に寄りすぎないように、右側の黄金沢を意識しながらも、ブナの疎林が広がる最高の斜面を快適に滑っていく。それでもポイントごとに立ち止まっては地形と目標を確認しながら下っていくが、やはり地図と周囲の地形からだけでは、見通しがきかずに複雑な地形からでは、目標の尾根を確定するのはなかなか難しい。そこで登場するのがナオちゃんのスマホのGPSだ。現在地が確認でき、進むべき方向を簡単に見つけることができる。個人的には、文明の利



1444mピークから博士山頂を望む

器を利用するには抵抗感を持っているのだが、使ってみると、その正確さはやっぱり素晴らしい。P1,162付近からは尾根も細くなるうえに、立木が混んできて快適とは言い難くなるため、Co950地点からは滑りやすそうな沢状を選んで滑っていくと、目標としていた一本下流のP826左岸の沢から県道へと到着できた。

滑降の下部半分ほどは、尾根も傾斜が緩いうえに細くなり、また立木が混んでいて、決して快適とは言えないコースとなってしまう、お二人さんには無理にお付き合いさせていただきましたが、自分としては、気になっていたコースをトレースできて満足しています。

王博士の山頂で

